

うたごえ新聞

9/19
(1994年)
NO. 1500

THE SINGING VOICE OF JAPAN (UTAGOE)

日本のうたごえ全国協議会機関紙
うたごえ新聞社
〒160 東京都新宿区大久保2-16-36
電話03(3209)0638 FAX03(3200)0105
振替口座 00120-6-5631 毎週月曜日発行
1部154円・税込(〒40円)・月615円・税込(〒160円)

1500号 記念特集号



シューマンに魅せられて

ピアニスト 伊藤 恵さん

今月の、そして、本紙1500号記念号のへときめきインタビューはこの人、ピアニストの伊藤恵さん。先月の『反核・日本の音楽家たち』グローバル・ピース・ジャパン・コンサート(8月9日、東京芸術劇場)にも出演。シューマンのピアノ作品をライヴワークとするピアニスト・伊藤恵さんにお話を伺いました。インタビューは1500号、読者のみなさまにごあいさつも兼ねて、高橋正志日本のうたごえ全国協議会幹事長。

高橋 お忙しい中をありがたうございます。本紙は今号が1500号、来年は創刊四十周年になります。本紙を支えてくださっている全国の読者のみなさまにこの場をお借りしてお礼申し上げます。

伊藤 ありがとうございます。高橋 これまでCDはいくつか聴かせていただいていたのですが、直接、演奏を聴いたのはこの間の「グローバル・ピース」コンサートです。感動しました。

あのコンサートは著名な音楽家の方々の演奏、すばらしい作品が聴ける魅力と、同時に、出演者の方々の語られる

平和へのメッセージが一層コンサートを魅力的にしていますが、伊藤さんは、広島の実験で亡くなられたおじいさんの話をされていましたね。

私にとってのヒロシマ

伊藤 ええ、母の兄にあたる人ですが、二十歳という若さで学徒出陣として広島に行っただけです。広島は絶対安全だから、と言われていたそうです。八月六日の原爆で亡くなりました。命日は八月十五日なんです。あのコンサートの直前の七日に五十回忌を行ない、そして、コンサートに出させてください、私にとってひとしお感慨深いものがありました。祖母や母の話を聞いても、おじい様もユニークな人で、生きていたらどんなにおもしろい人だったろう、と一族の間でも語り草になっていくんです。

(4面へつづく)

今月の とまめき インタビュー

「歴史のパノラマ」(2、3面) ◆1500号に寄せて— 専門家、歴代幹事長 (5面) 祝氏名広告 (6面)

◆ミュージック 「時代の音楽を」(吉彦) / 芸能 マンスリー 「音楽家の発言」(伊藤) (7面) ◆走る(ぞう)...

少年少女合唱団とJCC / うたごえ、闘って本務復帰「太田耕三さん」(国鉄長野) / 広がる和太鼓 / 女性の

うたごえ(8、9面) ◆各地から聞かせるうたごえ、楽譜「故郷」(英語) / バージョン(10、11面) ◆寄稿「真夏の夜の

夢」(秋元) 聴覚障害者のコンサート / つなかりあそびうた ◆2000号の新聞は15面 ◆青年は行動する16面



みなさまに支えられ、うたごえ新聞は今年で1500号を迎えました。全国の読者のみなさま、協力いただいている多くの専門家、団体のみなさまに厚くお礼申し上げます。

☆ ☆ ☆

うたごえ運動の機関紙として一九五五年に創刊されましたうたごえ新聞(歴代編集長、鎌田勝、川路隆示、甲田富士夫、町口充、塚田一木、福島素子、今年三月より三輪純永)は、文字どおりうたごえ運動の機関紙として全国をつなぎ、人々の暮らしと歌を、国内外の音楽・文化情報を伝えてきました。

さらに機関紙にとどまらず、よりよい暮らしを願う多くの人々に広く読まれる新聞をめざし、この記念号発行にあたり、編集部一同、一層の紙面の充実にあつたこと、決意をあらたにしております。

☆ ☆ ☆

今号は、読者のみなさまはじめ、支持、ご協力いただいている多くのみなさまのお力を得、初めてのカラーページを試みました。暮らしの中からわきおこるうたごえ、全国の様々な活動や、専門家の方々の貴重な提言も寄せていただきました。

それら一つひとつを糧に、うたごえ運動の歴史と活動に確信を持ち、運動も本紙もさらに発展させていくステップとしての記念特集号、多くの人々に届くことを願ってやみません。